



第10回沖縄県アンダー40設計競技 ティーダフラッグス2021

大度アーチ

～ 大度海岸のもう一つのイノー ～

糸満市南部、長い年月をかけて築き上げられたサンゴ礁の地形に抱かれ、

穏やかな浅海に豊かな自然環境が残る大度海岸のイノー。

この地と呼応するように生み出された「もう一つのイノー」は、訪れる人々の拠り所となり、

美しい海への想いと共に、未来へと受け継がれていきます。

01. 大度園地の現状と未来

本計画の対象敷地である大度園地は、大度海岸への玄関口であると共に、ジョン万次郎上陸之地記念碑へと繋がる歴史文化の側面を持っています。大度海岸には、様々な自然体験活動を楽しむために多くの人々が訪れており、**今後の観光資源を担う重要な拠点**となることが考えられます。大度園地をより多くの人々の印象に残る施設とするために、**敷地が持つポテンシャルをさらに引き出す計画**とすることを考えました。

1. 東側にピクニック利用としての広場を確保し、西側に公衆トイレ及び休憩所を配置することで、**敷地の多くの場所から大海原の景色を享受することができる計画**とします。
2. 東西を繋ぐ園路を整備すると共に、ジョン万次郎上陸之地記念碑からの園路を大度園地に引き込むことで、**施設全体の人の動線がスムーズになる計画**とします。



02. コンセプト 大度園地に生まれる「もう一つのイノー」

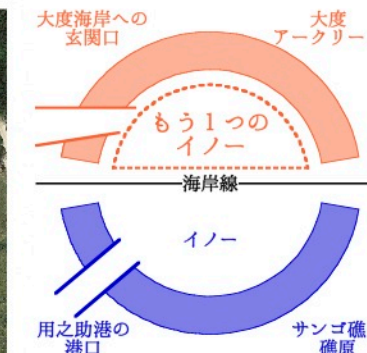
大度海岸の地形を見ると、沖合の白波が立つ場所に自然の防波堤であるサンゴ礁の礁原があり、礁原から砂浜にかけてイノーが広がっています。礁原を境に、波が強い外海と穏やかな浅海のイノーとに分かれることで、それぞれの環境に適した生物が生息するというゾーニングが生まれています。さらに南西側の礁原には、干潮時の外海への玄関口である用之介港の港口があり、明治後期の大早魁の際に、地域の支えとなった歴史的な土木遺産として知られています。

本計画においては、これらの**大度海岸を特徴付けている地形の構成**に着目しました。イノーを取り囲む礁原のように円弧状の建築を考えることで、**大度園地に「もう一つのイノー」**としての広場を生み出すと共に、広場から大きく開いた大度海岸への玄関口を設けることで、**大度海岸を訪れる人々の拠点の場**とすることを考えました。

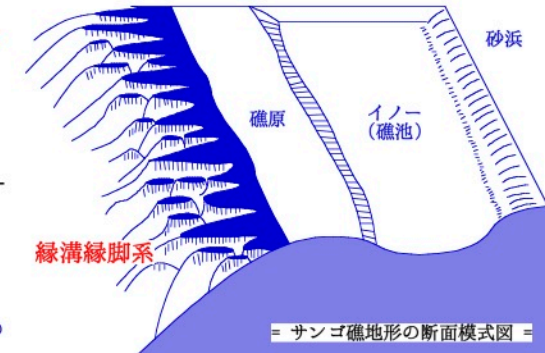
また礁原において、外海に面する波当たりの強い場所では、**縁溝縁脚系**と呼ばれる櫛の歯のような**地形**が発達しており、この構造が消波作用を持っています。「もう一つのイノー」を取り囲む建築の構成については、この縁溝縁脚系の形状を参照し、**櫛の歯のように均等に並んだ列柱により、片持ちの屋根を支える**というシンプルな構成を採用しました。礁原が外海からの波を受け止めるように、円弧状に取り囲む列柱により人々の動線を緩やかにコントロールします。



= 大度海岸の地形 =



= コンセプト図 =

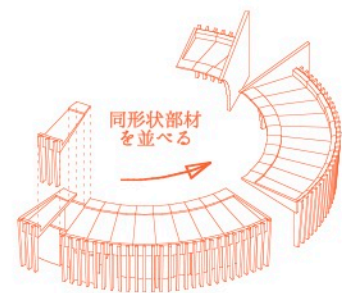


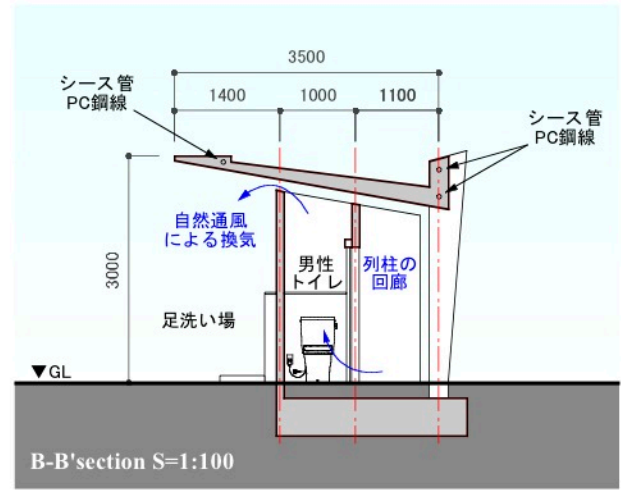
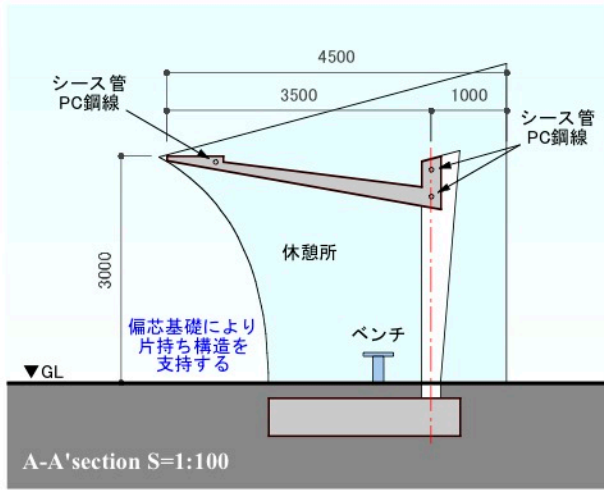
= サンゴ礁地形の断面模式図 =

03. 建築構法

円弧状平面を生かし、同じ形状の部材を連続して並べて全体を構成することで、**工場製作された部材を組み合わせるプレキャスト工法**を採用した鉄筋コンクリート造とします。

現地にて生コンクリートを打設する工事を極力避けることで、工事に伴う汚水の発生を押さえ、**大度海岸の豊かな自然環境に配慮した施工**となるようにします。また、現地での工事作業を少なくし、**工事中の施設利用者の安全性確保に配慮した施工**となるようにします。

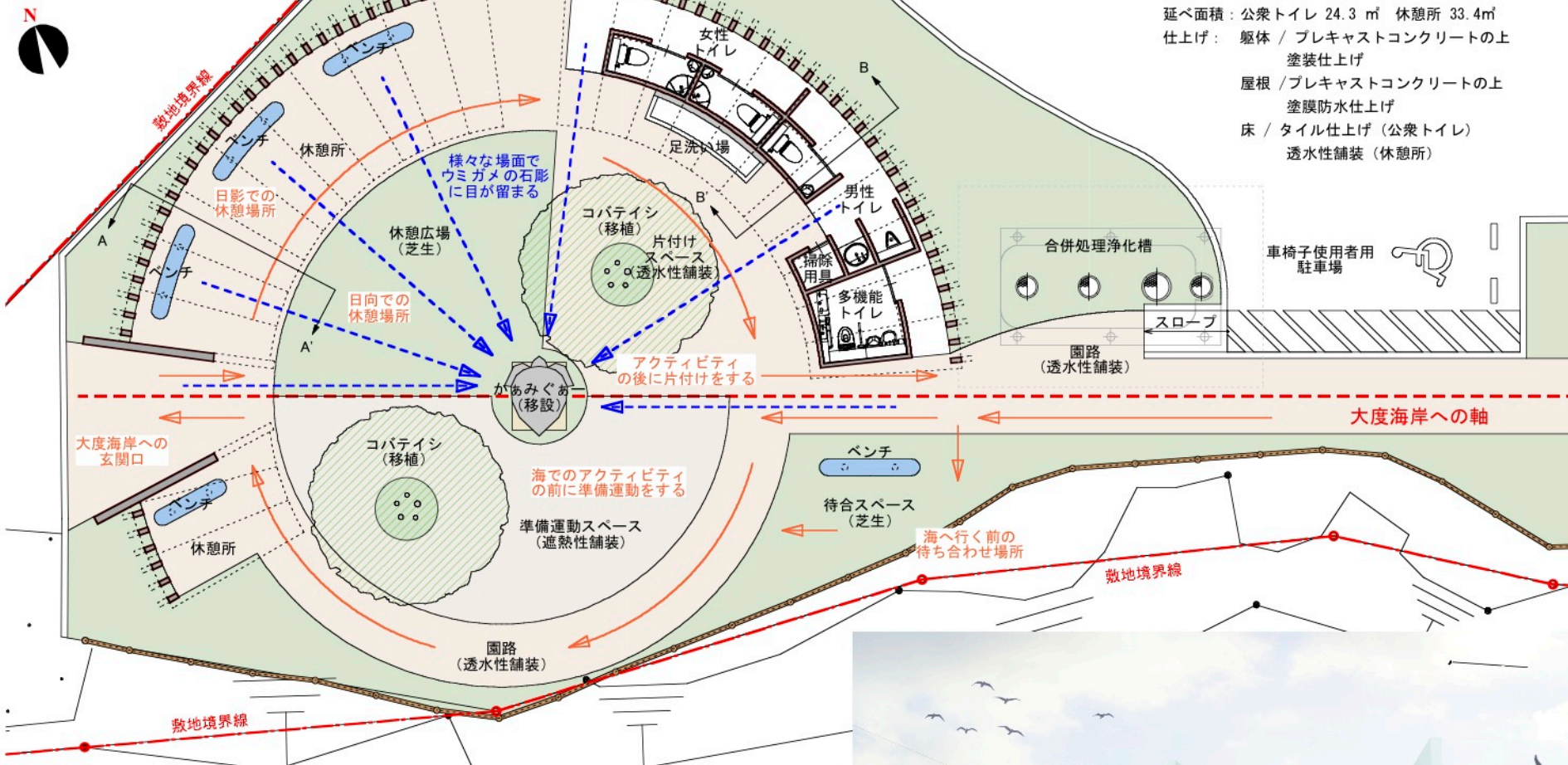




04. 平面計画

大度海岸を訪れる人々の拠り所となる広場には、利用場面に応じた設えを円弧に沿って計画することで、動線の流れを生み出すことを意図しました。広場の中心には、生命や自然の豊かさを表現して製作されたウミガメのモニュメントを移設することで、様々な場面でモニュメントが目にとまり、自然豊かな環境の大切さを改めて振り返る場となるのではないかと考えました。

plan S=1:150



建築概要
 規模： 地上 平屋建て
 延べ面積： 公衆トイレ 24.3㎡ 休憩所 33.4㎡
 仕上げ： 躯体 / プレキャストコンクリートの上 塗装仕上げ
 屋根 / プレキャストコンクリートの上 塗膜防水仕上げ
 床 / タイル仕上げ (公衆トイレ) 透水性舗装 (休憩所)

05. 工期ごとの工事範囲

